

ASIST ガイドライン作成会議平成18年第3回会議

東京ルービーホール 平成18年11月18日

出席者：興梠、佐々木、江面、山田、永金、古井、橋川、奥、柴田、前田、新井、宇都宮、伝法、山下、野川、本多、平井、北島、渡辺

1. 今後の予定

1ヵ月後(12/19)までに、今回の会議の討論結果を元に各グループが最終原稿を仕上げる。

興梠委員長から細かな修正点については各委員に個別にメールの予定。

最終原稿が集まり次第、出版社に原稿を渡し、同時に外部評価委員に原稿を送る。

1月中に外部評価委員に評価をいただき、変更を加える。

2月中に最終校正。

5月出版。

2. 各グループごとに、草案の検討を行った。

全体として確認されたこと

- 全体に推奨グレードをそろえる。グレード A については明確なエビデンスを有するものに付けることとした。
- 参考文献の形式は CT,MR 灌流画像ガイドラインに準じ、各記述の最後に文献番号、エビデンスレベルをつける。一文内に異なるエビデンスレベルの文献が混在する場合は、本文内に各文献ごとに番号を振ることとした。
- 推奨項目の内容については、できるだけ簡潔な文にする。
- 血栓溶解療法については、rt-PA 静注療法、局所線溶療法と区別をつける。血管再開通療法については言及しない。
- 参考資料：各項目ごとに2-4 ページ程度とする。XeCT については検査法の解説も含むため、より多くの内容とする。